

「綱渡りの愛知県予算」----2003 年度一般会計予算案を読む

*2月20日に発表された03年度の一般会計予算案は、総額2兆3677億円、前年度比0.3%の微増にとどまった。99年度に次いで過去2番目に低い伸びだが、多くの都府県がマイナス予算を編成するなかで、愛知県は「積極型」予算としている。

*「積極型」予算は過去最高の借金に依存している。歳入の柱をなす県税収は5%減の9520億円を見込む。企業収益の低迷により法人2税が2.8%減などによる。税収や地方交付税(23.1%減)が大きく落ち込みなかで、県債は過去最高の5347億円にのぼる。歳入に占める県債の割合は22.6%ま



で上昇した。県債発行額が5000億円、県債依存度が20%を上回ったのは初めてである。県債の内訳をみると、新発債は2406億円と前年より8%減だが、借換債1477億円、臨時財政対策債(赤字地方債)1220億円が大幅に増加している。とりわけ赤字地方債は前年度の520億円から倍増している。これは地方交付税の減額分を穴埋めするためのものだが、15年で国が返済するものの、一方的に押し付けられる借金である。

*こうした愛知県の借金漬け財政は、全国でも特筆される。県債の発行額は全国一であり、2番目の北海道4704億円、3番目の東京4379億円をかなり引き離している。県債依存度22.6%は全国最高(平均は14.8%)、県債残高は3兆5789億円まで膨らみ、前年度からの伸びは6.9%と、これも全国最高である。残高は10年前と比べると2兆円も増加しており、公債費は3700億円(歳出比15.7%)、利払費だけで830億円にのぼる。

*借金依存の「積極型」予算は、万博と空港という大規模プロジェクト、さらには地震対策などによる。行政サービスの切り詰めによる県民生活へのしわ寄せが懸念されるとともに、巨額の借金で首が回らないような事態が進行している。「財政中期試算」も改訂を余儀なくされるなど、2005年を前に財政再建が喫緊の課題となっている。

(6月18日記)